

鹿児島川内原子力発電所の再稼働を許さない

2014年11月8日

東京電力福島第一原子力発電所の事故は未だに収束の見通しもないまま放射性物質をまき散らし続けている。科学的にも技術的な裏付けもないまま作られた行程表で1号炉溶融核燃料取り出しを当初2020年としていたものを、今度は2025年へと繰り延べすると政府が発表した。

1998年に廃炉となった事故を起こしていない東海原子力発電所ですえ、未だに炉心解体作業に手が着かないままで先送りが決められた。しかも、解体廃棄物の処分法の見通しもつかぬまま暗礁に乗り上げている。

こんな現状にも拘わらず政府は、川内原子力発電所再稼働を画策している。

川内では周辺自治体が住民避難計画を立てることが不可能だと表明しているにもかかわらず、わずか立地市と県議会、県知事の承認を口実に再稼働を強行しようとしている。

日本は太平洋プレート、ユーラシアプレートなど4つのプレートがせめぎ合った地震・火山列島で、この列島上に55基の核発電所が乗っている。特に川内では周辺には列島を覆う規模の大噴火歴をもつ火山があり、予測不能の核発電所事故が危惧される。

すでに一切の核発電所が稼働停止した2012年5月から8月と2014年5月から今日までの5ヶ月間、他の発電手段によって電力供給が余力を持って可能であった。それを、電源需要逼迫を口実に再稼働する必要は全くない。

我々新医協は、広島・長崎の被爆者の健康を守る運動に加わり、ビキニ核実験の被災者調査など、一貫して核による人間の生命と健康に対する脅威と戦ってきた。

福島の悲劇と苦難を二度と繰り返させないため、私たち新医協は川内原子力発電所の再稼働を許さず、その策動を直ちにやめるよう日本政府に抗議する。

新日本医師協会総会